



(右上から時計回りに) 小高い丘に鎮座する白兔神社 / 「猛者えびの海力(かいりき)めし」は2625円(5品)と1680円(3品)の2種類 / 鳥取を代表する海の幸、松葉ガニと鳥取港海鮮市場「からいち」の岡本由起枝さん / 白兔神社のお守り(左から500円、500円、800円)

思いあふれる 伝統の流しびなと 昔日のひな飾り

鳥取県東部に位置する鳥取市用瀬(もちがせ)町。古くから交通の要衝として栄えたこの町に、今年も「流しびな」が春の訪れを告げます。行われるのは、旧暦の桃の節句(今年は4月5日(火)午前10時から)。同町を流れる千代川河川敷から、晴れ着姿の子どもたちが男女一対の紙びなと桃の小枝をさん俵に乗せて流し、1年の無病息災を願います。例年観光客が多数訪れますが、情趣あふれる光景に皆く

ぎ付けとか。確かに、真っ赤な衣に金のはかま、つるんとした顔のおひな様がたゆたう川面に、小さな手を合わせる姿の愛らしさといったら。 「カメラのシャッターを切らずにはいられません」とは、対岸にある「流しびなの館」(電話0858・87・3222)の田中倫明さん。参加自由なので、おひな様を購入して家族の災いも流してしまいたいものです。用瀬町の南にある智頭町は、参勤交代の道でもあった智頭往来(因幡街道)と備前街道の合流地にして、沿道に古い町並みが残る散策エリア。ここでは、豪壮なたたずまいの「石谷家住宅」(電話0858・75・3500)で「小さな春」を感じてみましょう。同住宅はもともと、約3000坪の敷地、池泉回遊式日本庭園を中心に配した40の部屋、高さ約14mの吹き抜けに松の巨木の梁(はり)組など、近代建築の技術の推移を示す歴史的建造物。しかし4月5日(火)までは同家や地元の人がある昭初期を中心としたひな飾りを、各部屋で展示中。和風建築の伝統美と調和したひな飾りは必見です。



(右上から時計回りに) 親子で参加したい「流しびな」 / 「石谷家住宅」で味わえる「おいしいおひな」(要予約、800円) / 重厚にして広大な土間 / 智頭町の町並み

鳥取の春を告げる町へ

「石谷家住宅」に展示されているひな飾り

「ゲゲゲ」が流行語となるなど、全国から脚光を浴びた鳥取県。今回取り上げるのは、旧暦の桃の節句に行う伝統行事を控えた町と、ウサギ年の今年こそ訪れたい白兔(はくと)伝説ゆかりの地です。尽きない魅力を探求して、いざ春の鳥取へ。



白兔神社が大切に祀られている白兔の灯籠

縁結びを願いたい 神話の舞台と 漁師町の春の味覚

取り残された浜崎島(おきのしま)から陸地に戻るためにサメを欺いてその背を渡るも、最後の1頭に丸裸にされた白ウサギ。八十神(やとがみ)の意地悪な教えで潮を浴び、痛くて泣いていたところを大國主命(おおくにぬしのみこと)に救われます。喜んだウサギは、大國主命は八上姫(やかみひめ)をめると予言、見事結ばれました。この神話「因幡の白うさぎ」の舞台こそが鳥取市白兔。今年、いつ

も以上に「縁」を取り持つてくれそうです。例えば神話のウサギを祭った白兔神社は、いわばパワースポット。ウサギがモチーフのおみくじやお守りにも御利益を期待しましょう。またウサギが渡った白兔海岸沿いの道の駅の名も「神話の里 白うさぎ」(電話0857・59・6700)。ロケーションの良さはいわずもがなです。同じく鳥取市の河原町は「八上姫の里」と呼ばれ、道の駅「かわはら」では「八上ノ御縁袋」なるお守りが人気。ほかにも神話ゆかりの地が各所にあるので足を延ばしては。そして海の幸。松葉ガニもシーズンだけなわですが、鳥取市賀露町で

プレゼント



鳥取のひな祭りセットを5人にこの記事で紹介した「流しびな」のさん俵1体(直径約18cm)と、コメで作ったひな菓子「おいり」(5個入り3袋)をセットで。応募は、はがきがFAXに〒、住所、氏名、年齢、電話番号を書き、最終面上部あて先の「流しびな」係まで。3月2日(水)締め切り。

■アクセス
車で…一宮IC→(名神高速道路→中国道)→佐用JCT→鳥取道(無料/智頭、用瀬で途中下車可)→鳥取市街
電車…JR名古屋→(新幹線)→JR姫路→(智頭急行・スーパーはくと)→JR鳥取(約3時間30分)

■問い合わせ
鳥取県名古屋本部(中日ビル4階 電話052-262-5411) <http://www.pref.tottori.lg.jp/nagoya/>



●見つけた! その2「縁(えにし)ロール」
白ウサギが取り持った縁(赤い糸)をラスベリーのソースで表現し、米粉などを使った生地を巻いた一品。「購入された方の縁が結ばれますように」とは、開発したスイーツ店「G-Style鳥取店」(鳥取市/電話0857-27-9555)の加藤光太郎さんです。1本1000円。